

いずみ会々報

第 18 号

東京都立大泉高等学校同窓会

(二十四日 中山)

総会案内

本年度の総会は十月十五日(日)、午後一時より三時まで、好評により昨年と同様、豊島園の野外会場に於て行なわれることに決定しました。

会費は高十五期迄千五百円、高十六期以降六百円、新卒業生三百円の予定です。

食べ放題、飲み放題の立食型式。又、豪華景品が当たる福引など、いろいろの催しが予定されております。

結婚されている方はご家族を、これから結婚される方は恋人を、ひとりぼっちの方は友人を、皆さまお誘いあわせて、多数のご来場をお待ちしております。尚、閉会後は自由に、サイクロン、メリーゴランド等で若かりし頃を思い出し、お遊び下さい。

▼先生方の近頃▲

—クマさん—

「オレはもう余生を送っているようなものだ。四年前に

もう死んだものと思っている。お母ちゃんのおかげで今生きられていると思ってる。」クマさんは四年前心臓発作で入院した。夜中に走って救急車を呼んだのが奥さんだった。

絶対安静の床の中で、仰ぎ見た空の青さ、桃の花の美しさに生きることの尊さを実感したという。クマさんという愛称は、下町的ムードたっぷり親しみやすさから来ているのだろう。クマさんのお宅へ伺って、さらにその感を強く

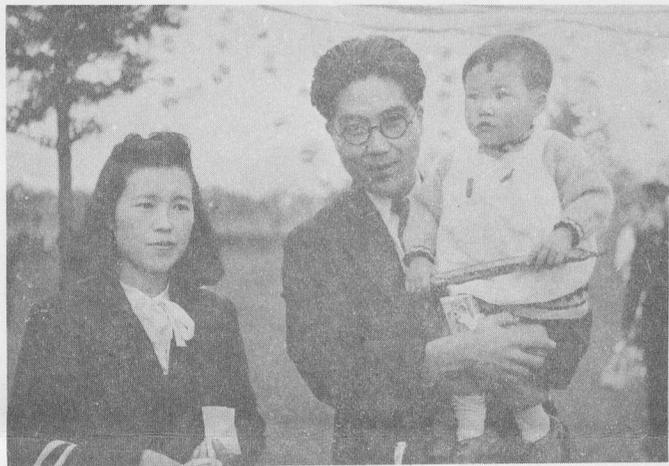
した。昭和25年に大泉に来て以来住み慣れている現在の赤羽のお宅。その前は茨城の霞ヶ浦で「あんちゃん」と親しまれた若い先生だった。のびのびとした当時の生徒をなつかしみ、「昔も今も生徒の質には変りないんだが、何が何でも大学へ行って出世するという社会が変わってしまった。

子供達の青春までゆがめられてしまふのはがまんでできない。」と言われた。

クマさんの家族を紹介しよう。小島勇作(53)、美江子(47)、ゆみ子(23)、結婚、都民室勤務、恵子(20)、東京学芸大言語科三年。それに昔の教え子と家族ぐるみのつき合があるという。教師は、そういう時が一番うれしいのだそう

だ。クマさんは東大の経済を出たが、学生時代は、文学や歴史や哲学の本ばかり読んだ。一方的に大学や就職のことを決めてしまい、ガンとして動かない父親だった。

「日鉄の面接試験の当日、映画を見ちゃつてねエ。どうしても先生になりたかったから。」と、クマさんも必死に反抗したようだ。そういう訳で、家出の経験も二回ばかりある。親友の家に居候して、彼の妹である美江子さんと知り合ったのだから人生もおもしろい。



クマさんを聞いてみると、「よく話しますね。何んでもいい合えるんです。」と言っただけ。社会的な能力よりも、家庭を明るく楽しくしていくことを一番の目標にしていることがよくわかる。趣味はこれといってないが、本屋へ行くことは楽しみのひとつだそう。奥さんからみると、まじめでアイデマン。今日の献立ては何にしようかと、いっしょになつて考えてくれる。クマさんから奥さんを見ると、よくやってくれるの一言に尽きるといふ。お客さんが来ると心をこめてもてなす。それが本心に人の心に伝わってくるのである。教師の妻なんて人を快く迎えてくれなければつとまらない。クマさんの一家はそういう暖かさが、じかに感じられるのである。

クマさんは、今生きていること自体、すばらしいと言っている。人生が手放しに楽しいと言っている。大きな目をギョロギョロさせながら話に夢中になる。人を愛し、人生を愛しているのだ、と私達に感じさせた。

— 文ちゃん —

七月二日(日) 早朝、桜台にお住いの花崎文一先生(通称文ちゃん。四十三年まで当校で物理を担当。現在は、小山高等専門学校教師で、東横女子学園短期大学の講師)を訪問して、いろいろなお話をうかがいました。

先生のお宅は、開進第三中学校のすぐ裏手にある閑静な住宅街の一角にあり、門内には、人なつっこい二匹の犬が放してあります。お座敷へ通されてまず目についたのは、大きな棚一杯にズラリと並んだ焼き物。さまざまな色や形の茶器の他に床の間や柱には、趣向をこらした瓢箪や壺等々。裏庭の「仕事小屋」にカマドがあり、所校長先生達にも勧めてラクの焼き方を伝授されているそうです。粘土探しや色の出し方に工夫をこらしていらっしゃる先生は、「もっぱら道楽として三年程前から始めた」そうですが、その腕前たるや、専門家にもひけをと

らない程で、何に対しても熱心で深く打ち込み、常に研究心を失わない先生の性格、態度から、私達も大いに学ばなければならぬ点があるように思われます。

その他先生のご趣味としては、池に鯉を飼い、宝石を磨き、庭木、草花を育成したり……。雑学に加えて、文字通り先生の「博物学」には、お伺いするたびに驚嘆し、私達も新たな知識欲への衝動をかきたてられます。

常日頃から、「学問では、学説や権威にとらわれて、考え方が一面的になってはいけない。」と、おっしゃっている先生は、庭の草木にも、「本で名前は知っていても、実物を見なければ……。」と、数多くの種類を集めて植えておられます。

又、いかにも文チャンらしいアイデアだと思っただのは、池の鯉を取りにくる猫をこらしめるために、池の一角に一万ボルトの電線を張って、哀れな猫君をビックリさせたというはなしです。

先頃、淑女の居揃う東横女子学園での新学期に、こともあろうに「物理」の最初の授業時間、全女子学生に、「私の男性観」なるレポートを提出させたというお話を伺って、純情可憐なるこの私めは、ビックリ、心臓がドキドキいたしました。しかし、「物理学とは、物の見方、考え方、つまり物事の道理を正しく見極める事を学ぶ学問である。」と承り、納得した次第です。

先生は、二十年間教壇に立たれた大泉高校を去っても、「昔仲間」の多い大泉へはよく来られるそうです。そこで先生が一言注意したいのは、「昔あった木造校舎に代って、高い大きな鉄筋校舎がきれいに建ち並んでいますが、中へ入ると意外に破損が多いのには驚かされます。つい三、四年前までは、新校舎、特に実験室を使用する時は、毎時間使用する前に机を雑巾がけしてから使ったものです。校舎の老朽化をとめる為にも役立ちますが、それ以上に、環境を整理するかしないかでは、

生徒達一人一人の衛生や勉強の能率が大きく違はずです。教室が汚れているという事は一種の公害であり健康にもよくない。教室を自分の場所と考えて、生活環境をもっと気持よく整えなくてはいけない」という事です。今盛んに話題になっている公害問題にも、自分達の身近な所から改善していかななくてはならないと思われまます。



帰りがけに、庭の垣根から一本の矢車菊が顔をのぞかせていました。「ずい分前になくなってしまったと思っただけに、やはりまだあったか。」と先生も意外な顔つきでおっしゃっているように、矢車菊とは、ドイツの国花でもあり、どんなに荒涼とした土地にでも、又、どんなに踏みつけられても再び立派に立ち直り、力強く花を咲かせる。言わばドイツの民族精神を象徴した花だそうです。先生は子供達(一男二女)にこの花を、「一般概念や定説を口からではなしに、実物を通して教えている」のです。

(十六期高野、十九期今村)

母校近況

服装問題を中心に

今年度から服装が自由となり、生徒心得の服装に関する項が改訂されることになった。そこで、この問題を中心に生徒、父兄、教師の反応及び現大泉高生の気質等を大泉指導部、清水真事先生に伺ってみた。

まず、服装の自由化を求める声があがったのはいつごろからかという質問に対し、「契機の一つとしては管理体制の打破を掲げた大学紛争があげられ、それ以降大泉でも従来のピラの配布や印刷物の掲示に関する許可制への反発があつて、服装問題もこれらと一連のもの。」としながらも社会全体の背景を考慮されて、「服装の自由化といっても本校だけの動きだけではない。社会の変化に伴う価値観の多様化との関係もあって、はっきりいつとは言えない。」と付け加えられた。

さらに、自由化を促した一要因として都立高校としての条件を指摘され、「建学の精

神を今日に伝えるような私立

高校とは異なり、様々な嗜好を持った多くの型の生徒がいることが都立高校の特徴。」のように一見気づかないような面も自由化の重要な背景となっているようである。

次に、自由化に踏み切ったからの生徒、父兄、教師の反応はどうであろうか。初めに当の生徒について、「服装が自由になったからといって、生徒が自主的になるものでもないし、そのような結果は早急に出るものでもない。ただ、大泉の場合は服装に関して従来から標準服ということで、比較的自由な伝統があつた。

その点が自由化に際してブラス面に働いており、今のところ生徒の良識もほぼ守られているようだ。」と卒業生を安心させることばを伺うことができた。

また、以上のことは新一年の改訂の項には標準服を残すことが明記されることもあって、幅広い服装の選択が可能を訳で、戸惑も少ないようである。

ある。

一方、父兄、教師の反応はどうであろうか。父兄の経済的負担についても伺ってみると、「父兄や教師の中にも服装の選択は生徒自身の好みによる判断にゆだねてもよいとする向きもあるが、父兄、教師ともに依然服装に対する既成観念を持っている。従って、自由化によって高校生らしくない行為が容易にできてしま

うのではという懸念もあつて、相手ともに広範な受取り方をしている。」といった具合で、転機にあらがちな戸惑は当の生徒より、むしろ、父兄、教師の側に目立つようだ。

さらに経済的意味あいに触れられて、「服装を選ぶ場合、いったい何が経済的かという問題がある。例えば、家庭での服装を学校に着て来ればそれは経済的とも言える。」と従来からあつた学生服が経済的であるとする考え方にも単純な疑問が生じてこよう。

しかし、ここで注目すべきなのは、健全な高校生活が安く買われはしないかという点

である。言いかえれば、安易な服装の選択によって学校の風紀を乱しはしないかという懸念である。この点について先生ご自身は「服装はあくまで個人が選び取ってゆくものと僕は思う。しかし、精神発達の段階から見ると、自我の確立性にも疑問のある時期でもあり、いかに学校生活に適した服装を選択してもらうかが思案のしどころ。」というこ

とばかりも、今後とも各所で屈曲が予想される服装問題である。

さて、服装問題はこれ位にして、次に大泉高生のここ十年程の移り変りを伺ってみた。クラブでそれがよく比較できるのがサッカー部(清水先生は大泉で九年目、現在サッカー部顧問)と前置きして、「大泉に来る以前からサッカー部は知っていたが、当初は旧制中学の流れをくむというか、野生的でがむしやらの内にも個人の持ち味を生かしたプレーが展開されていた。それが次第にプレーはスマート化し、難なくこなす反面、ここぞと

いう所のねばりがなくなってきた。」と見られ、この傾向は他の高校生にも共通して言えるとも付け加えられた。また、一般生徒に関しては、「指導部に就いたころは、集会、運動会、文化祭でも初めはいら立ちや気をもませることがあつても、最後にはピシッと要所をおさえていた。しかし、最近は何れもつけられる生徒が少なくなってきた。」と、事前の懸念が取越し労苦に終わらなくなつた事態を憂いておられた。このようにけじめや集中力に欠ける事態が生じた背景を、情報過多の時代と分析された。

終わりに、現大泉高生気質を表現することばをお願いしてみた。

『外にあっては良い生徒』
『内にあっては卒直素直だが乏しい積極性』

発達したマスコミの世、高校生も社会の動きを鋭敏に受け止めていた。結局、現大泉高生気質は、現代高校生気質でもあるようだ。

運動会

山谷敬之

五月十四日の日曜日が雨だったので、翌日の月曜日に延期されて行なわれたためか、卒業生の観客は少なかったが、数人に感想をきいてみた。

「プログラム」をみたとき、今年新しい競技種目が入っているんだと期待していたら、競技内容は例年とかわりなく、名称が変わっただけなんだな。運動会実行委員会も例年どおりの悩みにぶつかっただよだね。委員会発足時には意欲満々で、よいアイデアなどももっているのだが、いざ、実行ということになると理論と実際との間にある壁にぶつかり、結局、従来どおりの内容に落つき、委員会は競技内容に新しいものを入れるかわりに、競技名に凝るといふ傾向になってしまっただな。運動会も三十一回目にもなれば、大泉高校の運動会というパターンができてくるのは当然だよ。それにしても競技名で

変身。"おれは男だ"ぐらいだったら内容も想像がつくが、"ニューヨーク炭坑の悲劇" "ちんちんかかも"などは名前前に凝りすぎた感じだね。"ある元実行委員だった卒業生の話。"各色とも応援団員の話。"数も多くよく練習した様子があるが、応援団だけで応援しているといった感じが、応援団の指揮で一般生徒を応援に参加させるといった場面がほとんどない。応援団の指揮に問題があるのか、一般生徒がそれについていけないのか、これでは応援用ショーといった感じだ。"ある元応援団員の話。

「木枯し絞次郎、天才バカボンそしてスヌビーか。まあ現代の高校生が考えそうなマスコットだね。でも、出来はよいじゃないか。毎年マスコット委員が少ない人数で作っているようだが、今年もこれまでに作り上げるのは大変だったろうに……。」ある元マスコット委員の話。

「閉会式が雨の中で行なわれたので、きつとグラランドフ

アイヤーの委員は閉会式のあいだ実施できるかどうか気をもんでいたのではないかな。でも結局、雨のため中止か。楽しみがなくなっただね。"あるグラランドフアイヤー委員の話。

最後に各色のマスコットにきいてみた。"赤が優勝したのはチームワークがよかったので当然な

のだ。"優勝の赤の天才バカボン。"ここ数年、優勝を続けていた青が二位に落ちたといっても、あつしにはかわりあいのないこととござんす。"青の木枯し絞次郎、"……"三位のスヌビー。

(山谷先生はれっきとした体育科教師。今年で就任以来十年目を迎えられる。)



ピンポンパンの時間ですヨーウ

—石毛さんの素顔—

「トラのプロレスラーはシマシマバンツ・を存知ですか？ピンポンパンの、石毛恭子のおねえさん、大泉高校二十一期の卒業生なんですよ。」

プロフィール

昭和二十五年六月七日生まれの二十才。三人兄弟の末っ子です。大泉高校から、東京女子大学短期大学部に進学。去年の四月アナウンサーとしてフジテレビに入社。ニュースや天気予報を半年ぐらい担当。前のおねえさんがやめ、

「子供番組をやりがついている子—それが石毛さん—がいる」といので披露されました。それから実力を、ピンポンパンと発揮して、只今活躍中です。

電話インタビュー

撮影はいつですか。

「あれはVTRで、月曜と火曜にまとめて撮っています。」最近の子供を見て、どう感じをすか。

「私たちの小さい頃と、根本的には同じでしょうね。ただ、テレビのCMなどの影響から、いろんなことを知っているなあって感じはします。」近所の子供たちと遊ぶことがあります。

「中学の頃は、よく一緒に遊びました。最近、近くに小さな子もいないのであまり機会がないけれど、子供と遊ぶことは好きです。」子供たちから手紙など来ますか。

「来ますね。だいたいみんな同じような内容で、”頑張ってください”とか”お手紙下さい”とか：一カ月ぐらい後に”な”って来ます。返事はなるべく書くようにしています。」

歌の勉強は？

「ピンポンパンをやるようになってから、週一回先生に付いて勉強しています。」番組の中でやることは、自分

たちでも考えるのですか。

「一応、専門の人が考えた原案のようなものがあるんで、それを基にしますが、私は社員ですから、スタッフの一員としてミーティングに出たりして考えます。」

他の番組は？

「現在は、ピンポンパン一本でやっています。」お休みはいつですか。その日の過ごし方は？

「こういう仕事です。で、特にいつがお休みとは決まっています。家でゴロゴロしていることが多いわ。本を読んだり：高校時代の友達とおしゃべりする

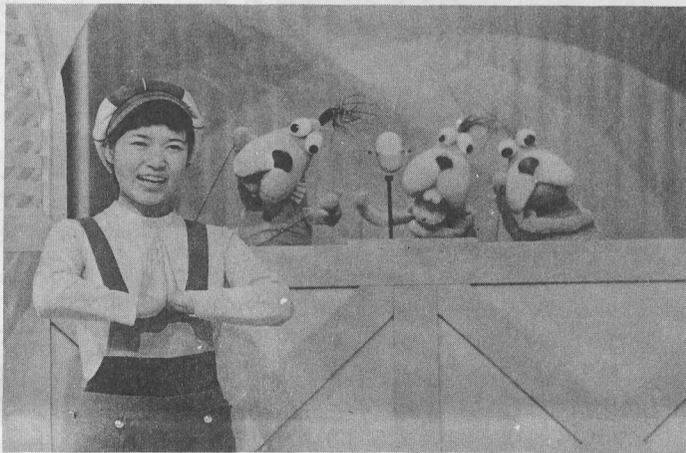
こともあります。」趣味・特技は？

「以前はよくフルートと答えていたけれど、今は仕事の一部になっているし、旅行は、暇がなくて行け

ないし。。。」

理想の男性は、清水の次郎長とか：どんな点がお好きですか。

「私、昔から好きだったの。義理と人情—男の中の男って



感じが。高校時代の人では：ソウネ、世の為人の為、やめておきましょう。」

高校時代は、楽しかったですか。

「とっても楽しかったです。クラブ(フラスバンド部)を、一生懸命やったから特に。六時で一応学校から追い出されるんだけど、遅くまでみんな練習したりして：。普段の、みんなと一緒にする練習が楽しかったわ。それから、文化祭や運動会などの本番前は、上の人から”水を飲み過ぎるなとか”手を切るといけないから庖丁を持つな”なんて言われたりしてね。その時は、”つまらないことを言うなあ”なんて思ったりしたけれど、今考えるとすごく懐かしいし、わかるの。他のことも、もう少しやっておけば良かったな：。という気持ちは多少あるけれど、とにかく楽しかったわ。」

高校時代、廊下で出会うとニコリ笑って声をかけてくれた石毛さん。そんな明るさとやさしさを、みなさんもテレビで見てくださいね。(写真は、石毛さんと番組中の人形、ダバダバダ兄弟)

投稿のページ

夏来たりなば

七期 宮崎由利子

今年も暑い夏がやって来た。

輝く太陽、若者の、そして旅の季節である。私も以前はよく汗を流しながら山歩きや海へ出かけていった。車窓から流れる風景を眺めながら解放感と未知の世界への夢で胸をおどらせたものである。

仕事をもつ身であるこの頃は、四・五日の休みを東京から二時間余りの伊豆の宇佐美の山の別荘で過ごすことにしている。レジャーレジャーの時代、どこへ行つても人の波。それに比べると、まだまだ急行が止まらない宇佐美は田舎で、海水浴場があるといっても地元の子どもたちと数少ない観光の人たちである。二、三冊の本をもって行く。相模湾の紺碧の海を眺め、心地良い風にあたり、夕方は山を下

り海辺を散歩する。砂浜には、子どもたちと犬がたわむれ、一日の仕事を終えた老婆たちが沿道の庭先で、野良着を洗っている姿は都会で生活している私の心を慰めてくれる。今年もその季節がやって来たが、静かな海が私を待っていてくれるだろうか。

私の近況

十一期 小串建雄

昭和三十四年四月に、私は早稲田大学第二経済学部へ入学した。こと志と相違した入学であったが、大学の広場へ行くと、連日マルクス学徒が岸内閣の批判をし、共鳴を呼びかけていた。その批判は日を追って激しくなり翌年になると、授業も休講が多くなり、学内は岸内閣と安保改定を阻止する政治的攻勢が強まっていったのである。このような状況のもとでも、私は高校生活を比較的のん気に過ごし、政治的無関心であったためこれらの運動に参加することなく、昼をアルバイト、夕刻か

ら大学へ通った。友人たちは高校時代から政治的素養なり不平不満をもつていたらしく学生運動へ参加していく。大学講内で、私は地下活動や左翼活動に入るように友人たちに誘われたが拒否し、高校、大学時代も政治的意欲がおこらなかつた。

高校当時から文学書をよく読み、漢文の講義にわずかながら興味を持っていたので、大学でも政治論より中国文学、中国経済論の講義を選んだ。しかし、興味をもつていても成績は芳しくなく、大学を出ると、漢文の素読も経済論も読み返すことなく日々の生活に追われ、平凡な毎日を送っている。

高校時代のクラス会も七年前前に音信不通になり、クラスメートや先生とも歓談する機会がなく、また、在学当時の同期生とも卒業後語り合ったこともなく、平素皆様方にご無沙汰しておりますが、今ここで紙面上からご挨拶申し上げます。

何だ君も！

十二期 相川光夫

私が高校を出てから十二年間が過ぎてしまいました。現在、通産省の製品科学研究所という所で、塗料や塗装について研究しております。この間一青年が仕事のことで私の職場に参り、雑談の時に、何の話から進んだのか「高校時代にこんな愉快な先生がいた」と彼は話し出しました。私も心当たりがありましたのでその先生の名前をきいてみると、なんとそれは花崎文一先生のことでした。彼は私より五年ほど後輩の大泉の同窓生だったので、それからはもう先生方の話、学校時代の思い出話に時のたつのも忘れて花を咲かせました。また、電車の中で時々大泉高校のバッチを付けた男女が先生方のこと、授業のこと、異性のことなどを話し合っているのを目にしますが、昔の自分たちを見よう、とてもなつかしいものです。

ただ、そこで話題にのぼる先生方は、ほとんど私の存じ上げない方々ばかりなのが残念ですが・・・。

私は高校時代の友達が一番好きです。大学の友人はだれも殆んど同じような仕事をやっているし、小中学校の友だちは単なる遊び友だちが多いということでしょうか。同窓生の職業も多種多様、会って話をするのが楽しみなので、同窓会、クラス会等の集まりにはなるべく出るようにしています。それにつけても、卒業後の経過年数につれて出席者数が減るのがなんとも残念です。ことに女性は結婚を境にばったり出られなくなるようです。

一年に一度か、せいぜい二度のこのような機会にぜひ出席して頂きたい。そして、しばし多感な少女時代に戻って楽しいひとときを過ごそうではありませんか。憧れのあなたと共に！



げに恐ろしきは……

十五期 田中泰行

げに恐ろしきは月日の移り変わりである。若い若いと自負しているうちに、或る日、突然ズボンがきつくなつてい

があり、久方ぶりで懐かしい母校を訪れた。校門を入れて左手の空地(我々は大泉公園と呼んだ)で入学当初よく隠れんぼをして遊んだものだ。

の答か、英単語の意味の当てっこだったに違いない。なにしろ私は秀才だったもので。

人よ……。その彼女ももうじき三児の母だと言。嗚呼。せり出してきた腹をゆさぶ

後輩の皆様に

十六期 長野昭子 (旧姓 吉田)

現在、ある私立の中学校に勤務、三年生に英語を教えている身ですが、教えることの

か咬み合いません。それ以前の重労働です。高校在学中の不勉強(教科書のみならず、

家庭と仕事との両立という問題があり、不器用な己に鞭打っている状態です。とにかく後輩の皆様之余り参考に



思い出

二十三期 松浦哲也

大泉高校に入学して以来もはや四年半も経ってしまいましたが、やはり桜の頃になれば制服制帽で喜びと不安の気持を包んで足早に桜並木を抜

け入学式に臨んだ日がまるで昨日のように思えます。本日に「アッ!」という間の高校生活だったようです。

それでもたまたま母校を訪ねてみれば、私の学んだ校舎の中の一つはすでになくなつていたり、あの素晴らしく広々とした校庭を体育やクラブで

やっとの思い……

二十四期 木村久美子

私、やっとな受験から開放されました。やりたいことを自由にやっています。自由と言

少し時間が欲しかったと思えます。その分、今、取り戻そうとしています。

テニスにかけた情熱で

二十四期 上海治彦

昭和四十七年一月五日、東京体育館にて四十六年度の高校男子の軟式庭球のランキング選手に選ばれたことは、僕

私、やっとな受験から開放されました。やりたいことを自由にやっています。自由と言

テニスにかけた情熱で来年の受験に向かって頑張っています。

『成功は重要なことではない。重要なことは努力である。』
(ジユフロワ)

大泉の桜

二十二期 渡辺 誠

保谷から池袋線を利用する私の毎年の楽しみは、大泉高校の並木道とグラウンドの四月の桜を見ることである。うららかな陽に淡い紅を映し、誇らしに咲き満ちる桜を電車の中からほんの束の間に見る時、あーこれでもう四年目かーと、過ぎ去った日々の数々を知らず知らずのうちに折り数えている自分に気づく。人生の何か新しい出発点となる四月の初旬に、それらの新しくなじめない日常に緊張し、いくらかの不安をもって電車をつり革に身をささえている時など垣間見る桜の花にどれほど心を和ませ、「ほっ」とするものを感じたことだろう。

そして、周囲の人のいるのも忘れ、過去の意識へと沈んでしまふこともしばしばであった。

高校二年の三学期に転校してきた地方人の私は、東京というものに何かとでもつまらないものを覚え、恐怖さえ感じていた。それ故、学校生活になじめず違和感がたえずつきままとって、いつもそこから

逸脱しようとしていたようである。自分を取り囲む人々の云うこと為すことに共感を覚えられず、そこにいることがまるで場違いな一とでも言うようなある一つの空気が自分をおおい、自分に鋭くつきつけられていたようであった。それが、その頃の高校生が一緒に感じ、一度は投げ込まれる精神のフラストレーションにしても、地方人の私に見えるものは、東京の高校生のもつ狡智さであり、他人の目をたえずうかがう偏狭さであり、彼等が内に秘めていた鋭い攻撃性であった。そこで自分の為し得る最低限の抵抗と、いじらしい反逆に自らを大きく

のめりこませていったのだ。授業を抜け出し、近くの茶店でジュークボックスを鳴らしたり、吉祥寺、池袋のジャズ喫茶に出掛けて行ったこともしばしばであった。ある特異な集団に身をおき、自分と同じように押し寄せるものからの逸脱を企図しようとしていた人々に同様の臭(におい)を嗅いでいた。そこ

にポーズを売り物とし、多少のコミックを感じることを禁じ得ないものが見えすいていたにせよ、それはそこで他の場よりもはるかに救われていた。休み時間に放課後にと足しげく通っていたのである。どこかしらじらしさを感じていながら、やはり、そうせずにはいられないというギリギリの場所であり、自分のほんのわずかばかりの主張であった。いつも安住の地を求めながら、内と外との拮抗がたえずそれを妨げていた。

そのが、並木道とグラウンドをかこむ桜の木であった。そして今……、大泉高校から速くはるかに離れた日々、毎年花を開く桜を見ると、何か自分を遠ざけ、悪意までも及ぼそうとしていた。大泉高校をいつか許していた。自分が嫌悪し軽蔑するものが完全に相殺され、それ以上に、過去という、もうどうにもならない時効が想い出という花までもそえているのだった。それらは皆、桜の花の淡い紅の色と辺りをたぐよう甘い香りとが削り上げ、自分を幻夢の彼方に酔わせるものに違いなかった。

走り行く電車の窓からすべてのものを見ようと、ある一つところに据えられた視界に何の予告もなく飛び込んで来る桜の花を、一人々が、家々が、草が、木々が、陸橋が、すべてがもう手の届きような方向にどんとんと押し流しながら、どれ一つとらえようとすることもどれ一つとして見ることの出来ない矢のように

に過ぎ行く電車の中で、私の意識はとらえてはなさない。来年も、再来年も、その次年も、きつと。
昭和四十七年六月



◆皆様の御投稿を

本号から新しく会員便り。投稿のページを設けました。今年には依頼原稿という形になつてしまいました。来年からは創造的で自由なページにしていきたいと思ひます。

つきましては、会員の皆様の投稿をお待ちしております。内容は、近況報告、小説、詩、俳句、短歌、川柳、イラスト、まんが等何でも結構、期限は原稿のできしだいにかまいません。記名、無記名いずれでもよろしいです。いづみ会宛にどしどしお送りください。 ※本号への投稿にお礼申上げます。紙面の都合で全部おのせできなかったことをお詫びいたします。(編集部より)

〳 籠 球 部 O B 会 〵

籠球部 O B 会は、大泉籠球会と称し、その会員は、本年四月現在男子約百十名、女子約九十五名である。定例総会は、毎年一回母校体育館で行われる。現役員との親善を兼ねるので、その時は八十名位の老(?)若男女が集うことになる。ある人は子供を連れ、又、会員同志で結ばれたカッブルも顔を見せる。結婚したばかりのご主人を連れて来る人もいる。一応、会長改選、会計報告等の退屈な儀式もあるが、皆のお目あては、その後の試合にある。現役対卒業生の試合が、男女各一試合ずつ行われるが、何しろ O B の数が多く、一試合ではものたらなく、O B 同志の紅白試合が追加される。試合はやらぬつもりで来た超 O B 連中も、この頃になると、ムズムズしてきて、急拠、シューズからシャツやパンツまで、人のを借りて超 O B 対現役一年生との試合が行われる。シュート

を決めて、ベンチへ戻り、また我がウデ健在なりと鼻うごめかす有様は、全く他愛なく、母校へ来ると、気持まで、高校時代に戻ってしまったものらしい。二次会は、都内某所で開かれる。余り広くない所なので、せいぜい有志二十五名位までだが、大学へ行っている女子とそろそろ頭の薄くなつて来た不良中年が、互いに酒汲みかわし、懐古談に花さかす。運動部の良さは、いわゆる縦のつながりに、あると思うが、我が大泉籠球会は、その意味から云つても、実に理想的な雰囲気があると云えよう。勤務の関係で、昼間の総会は、欠席しても、二次会には、とにかく顔を出す人も

いる。

もちろん、チームを作つて、対外的活動も行っている。主な活躍の場は、練馬区の大会で、ここでは圧倒的な強さを誇り、過去十年間連続優勝し、都民大会に出場、五位にくいこむこと五回、又女子卒業生チームも区の代表になり、都大会で堂々二位となった実績

を持つ。

本年度の総会は、七月三十日(日)に、新築されたばかりの区立体育館で行う。バスケットコートが二面あるので、充分たんのうできようし、バスケット以外の事もできる。何か趣好をこらしめて、今までにない総会にしたいと思つている。

会の構成メンバーも、結婚し、子が増えつつある。今後の会の進む方向としては、家族同志の交際の生まれるよゆうな、社交的な性格をあわせ持つようなものにしたいと思ふ。

(七月十日記)

大泉籠球会 安藤幹男

〳 英 語 部 O B 会 〵

四十六年度英語部 O B 会は今年三月二十五日、場末のさる所へ二十数名集まつて行われました。最古参が十六期の方で、若いのは今年卒業の二期十四期まで、但し、金がなくて暇のある連中はばかり集つたようです。

英語部といつても大学に入つても E S S へ所属するのは

一割以下、二十一期などは、ゼロ。

何故? まあ、こんな連中の話すことといえは……。〇〇さん、昨年名前が変わつたんだつて?」「ナニノオレという存在がありながら……。ニヤロメ!」「それより X X 氏、今年だつてさ。」「ヘエー!」などという週刊誌的な話題から、「この前、大泉に行つてびっくりしたよ。校舎変わつたな!」「部室はきたなくなつたなあ。昔はよかつた。」「昔はきれいだったんですか?」「そうさ、円形校舎ができたばつたかつたもんなあ!」なんていう昔話。あるいは、「今年の就職、きびしいんじゃないかな。」「ドゥルショックだからね。」「これは二十・二十一期のあたり。」「あの人、X X 大へ行つたんですつて?」などは、二十四期。一方すみっこで「現在の青医連は:。」や「:入管体制が:。」「:総括で:シコシコと:。」他方、「:オンナの子なんて:。」という類

廃派。

不思議なくらい英語の話は出てこない。そして最大公約的な話は文化祭とかコンパ等。あとは天気の話かな? 一

体 O B 会とは何かと問われそうである。昔の仲間が久しぶりに(実は、非公式にはしばしば)集まる、それに意義がある、なんて答えるのはおよそ英語部といつても少し英語の好きだった連中の集合に過ぎないからかもしれない。でもいいさ。とにかく、共通の思い出があるのだから。そうさ、いいのだからいいさ……。

ところで現在 O B 会の名簿によると百名をはるかに越えているのですが、十三期以前全く不明となっています。誠に恐縮ですが是非ともご連絡下さるようお願い致します。本年度の幹事は二十二期となつています。それから、一部分の人ではありますが、現役を熱心に指導されている方もおられることを付記しておきたいと思ひます。(七月記)

二十一期 守本 純

事務局より

四年前に作られた名簿が現在、転居等で千名を超える会員の行方がわからなくなり、又、住居表示が変わったりしたために今年、名簿の改訂を行なうことになりました。それにつきまして、現在各期の幹事がその作業を行なっておりますが、

昨年度総会風景

大泉高校同窓会恒例の総会は、昨秋十月十七日午後一時より、豊島園にて盛大に催されました。

幸い秋晴にめぐまれ、間瀬校長先生はじめ杉原先生、相川先生、花崎先生、清水芳彦先生、前田とめさんら、又、家族連れの新会員が多勢参加下さいました。



こともできかねますので、現在の名簿と多少なり変わっている会員の方々は、又、どなたでも結構ですから、他の会員のそれをご存知の方はいずみ会宛ご連絡下さるようお願いいたします。

教職員の異動

- △函子 岩雄生先(化学) 39
△都立新島高校
△坂間 利昭先生(数学) 37
△淀繩 光洋先生(英語) 38
△設立 武志先生(国語) 43
△望月のぶ子さん(事務)
(なお数字は本校就任年)

私立大学

- △早大五六名 △上智大二二名
△慶大二三名 △青学大一九名
△立大二二名 △理科大二九名
△中大三六名 △法政大一八名
△日大三二名 △明治大二九名
△武蔵一三名 △学習院 九名
△成蹊一一名 △明治学院九名
△日女一一名 △武蔵工一三名
△芝浦工大、工学院大、東洋大、各七名、その他九二名。

短期大学

- △東女一〇名 △青山学院八名
△跡見 八名 △立教女子九名
△実践 七名 △学習院 六名
△武美五名 △共立、大妻、家政、各四名、女子美、女子栄養、明治、各三名、その多一三名。

各種学校

- △都立保母学院二名 △東京スクールオブビジネス七名 △竹早教員養成所二名、その他八名。

就職状況

- 日本興業銀行二名、大蔵省
国税局、三菱商事、三菱レイ
ヨン、東洋信託、安田信託、
大東京海上火災、小田急百貨
店、三菱銀行、中野区役所、
都宮大、各二名、その他八名。
各一名等、合計一二名。

編集後記

大泉への執着が会報を創るのだと実感を持った。いずみ会員なら編集に参考を(T・E)
コンニチワ/今年大泉を卒業して初めてのいずみ会の参加です。編集してもむずかしいと思つたら大まちがい。何事も経験ですもん(Y・N)

やりたい方、いずみ会報の編集などいかがですか? 字数を数えて苦しみながら:でも、楽しかったわ。(S・Y)

今年はまだ編集後記は書かなくてすむだろうなどと思つていたが、いつの間にか、又筆を走らせている。ヤマちゃん/来年は君に頼むぜ、ぼく疲れたの。(K・O)

第十八号

昭和四十七年九月一日
発行所 いずみ会
東京都練馬区東大泉三八〇
東京都立大泉高等学校内
編集 いずみ会々報編集部
印刷所 (有) 昭映社